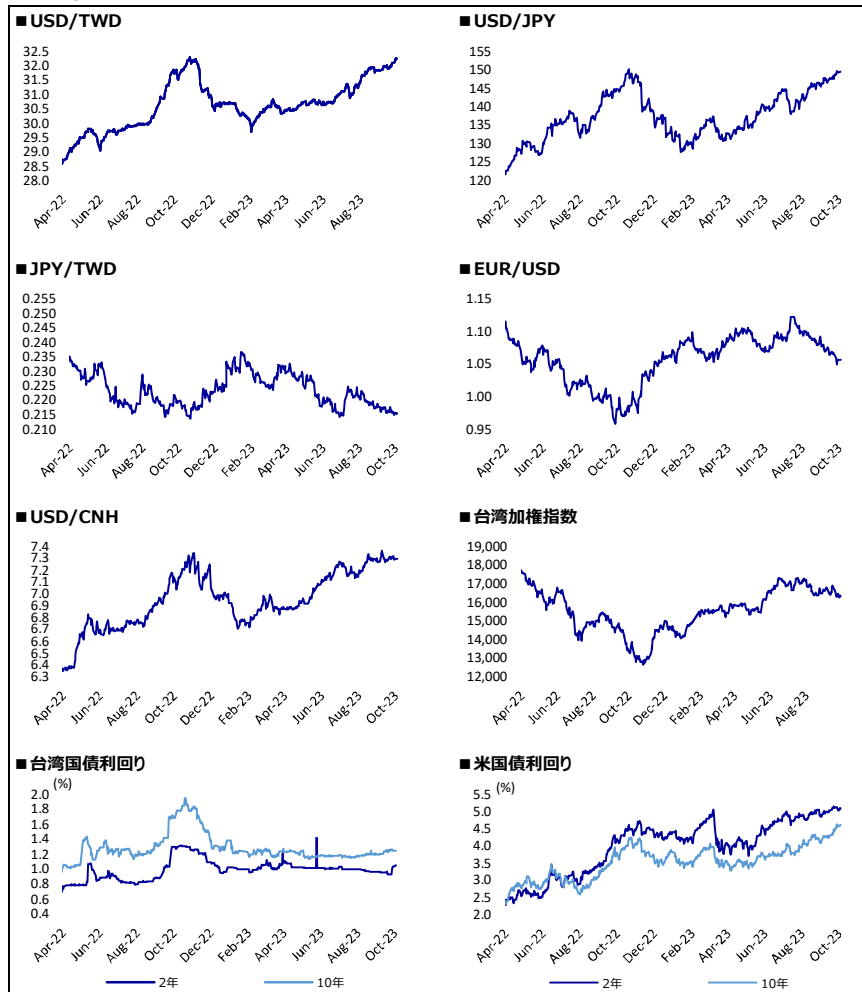


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇し、年初来高値を更新。週初9/25は32.120でオープン後、前週から継続する外国人投資家による台湾株売りによりリスクセンチメントが悪化する中、台湾ドル売りが優勢となり、輸出企業のドル売りが上値を押さえる局面もあったものの、32.1台後半で推移。9/26は軟調な台湾株と米金利の上昇を背景に台湾ドル売りが優勢となり、32.2台に乗せた。9/27は台湾株が急落する中、台湾ドル売りが加速し、32.2台後半まで上昇。9/28は台湾株の反発が見られたものの、外国人投資家による売り越しが継続する中、台湾ドル売りが継続し一時32.294まで上昇し、年初来高値を更新。午後に入ると上昇も一服し揉み合いの推移となり、最終的には先週比0.5%ドル高台湾ドル安の32.268で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は355.2億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初9/25は148.30でオープン後、前週の日銀の金融政策決定会合で緩和スタンスの維持が確認されたことから日米の金融政策の違いが意識され円売り圧力が強まり、一時148.97まで上昇。年初来高値を更新した。9/26は鈴木財務官からの円安けん制発言や、米9月消費者信頼感指数、米8月新築住宅販売件数が予想を下回る結果となったことはドル円の上値を抑えたものの、日米の金融政策の違いが鮮明となる中、円売り圧力が根強く、149.06で引けた。9/27は月末の実需取引から一時149円を割り込み、148.86まで下落する場面も見られたが、149円台前半で推移。米8月耐久財受注が予想を上回る結果となり米金利が上昇すると、米ドル買い圧力が優勢となり一時149.71まで上昇し、再度年初来高値を更新した。9/28は材料に乏しい中方向感無くレンジで推移。9/29は日銀の臨時的国際買入れオペ通知を受け149.50まで上昇するも、米金利が低下する中、ドル円相場も連れ安となり一時148.53まで下落。米金利の低下が一服し反転上昇に転じると、ドル円相場も反発し、最終的には先週比0.6%ドル高円安の149.35で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：32.100-32.340
今週は上値が重い展開を見込む。先週は米国株、台湾株の下落が継続する中、ドル買いの動きが優勢となり、年初来高値を更新する形となっていたが、今週は足許の過度な株価下落からの自律反発が想定され、上値は重いであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：148.50-151.00
今週は上値を試す展開を見込む。日米の金融政策の違いが鮮明となる中、財務官による口先介入にも反応が薄くなりつつあり、株価の自律反発も想定される中では円買いの動きは限定的となるであろう。ただし、ドル円は年初来高値で推移する中、介入への警戒感もあり、上値も重いであろう。

今週の予定

10/2 (MON)	米9月ISM製造業景気指数
10/3 (TUE)	米8月JOLT求人件数
10/4 (WED)	米9月ISM非製造業景気指数
10/5 (THU)	台湾9月CPI、米8月貿易収支
10/6 (FRI)	米9月雇用統計

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。